

データサイエンス共同利用基盤施設
令和元年度 第1回運営会議 議事概要

日 時：令和元年6月26日（水）15:00～17:00

場 所：データサイエンス棟 1 階 多目的会議室（東京都立川市緑町 10-3）

出席者：【内部委員】藤山委員、小原委員、門倉委員、吉野委員、前田准教授（北本委員代理）、野口委員、上野委員、野水委員

【外部委員】岩崎委員、矢嶋委員、横山委員

【陪席】 橋本企画連携課副課長、昨間 DS 推進係長、秋元 DS 推進係員

議 事：

議事に先立ち、昨間 DS 推進係長から、定足数を満たしていることから本会議が成立することが報告された。また、委員の交代があり、議長から横山委員の紹介があった。

審議事項

1. 前回議事要旨確認

修正意見等がある場合は会議終了までに申し出ることとし、特段の意見はなかったため、案のとおり確定した。

2. 2019 年度人事について（配置換）

吉野委員から、資料2-1・2-2に基づき、社会データ構造化センターへの配置換について説明があり、審議の結果了承された。

3. 2019 年度 DS 施設予算について

野水委員から、資料3-1から3-3に基づき、機構に配分されている重点支援経費について、また、これを財源としてDS施設内各センターに配分する予算について説明があった。加えて、機構本部から今年度予算の削減の強い要請があり、目標としてマイナス5%とすると回答しており、約2700万円を主に施設長裁量経費やDS推進室の活動費から捻出する検討をしていること、また、各センターへの予算配分のうちセンターが直接執行できるのは活動費のみとし、前期に6割、後期に4割の配分を基本とし、人件費はDS推進室でまとめて管理する旨説明があった。審議の結果了承された。

4. 2019 年度公募型共同研究について

野水委員から、資料4-1から4-6に基づき、ROIS-DS-JOINT 2019 の審査方針や過程、審査結果、予算配分案および申請者へのコメント案について説明があった。審議の結果、一部資料の記載誤りを修正のうえ了承され、研究課題の追加募集については今後実施を検討することとした。

報告事項

5. 情報・システム研究機構 2019 年度計画について

野水委員から、資料 5－1・5－2 に基づき、6 月末に文科省に提出する前年度の機構の実績報告書、および今年度の機構の年度計画の中から DS 施設に関する記載について説明があった。また、橋本企画連携課副課長から、今年度の実績報告書を作成する際には実績データ等の情報提供を依頼する予定である旨説明があった。

6. その他

- ・DS施設の今後の課題と、12月に実施される外部評価について、フリーディスカッションを行い、以下の発言があった。
 - DS施設が行う人材育成のメインターゲットをどこに絞るのかを決めておく必要がある。全段階というのは難しく、DS施設がすべきなのは研究レベルということになるのではないか。
 - 大学で実際に教育をしていると、大学にはデータがない。DS施設はデータの使い方を大学に見せるという貢献の仕方があると思う。
 - 一次データを取ることができている大学の先生はほとんどいない。データを取って歪みを取り除くことを理解する必要がある。
 - 機構に統数研・情報研とある中でDS施設をどのように特徴づけていくか。データサイエンスがこれまであまり貢献できていない人文分野に関わっていくなど、DS施設はスペクトルが広い組織だが、統数研との比較においてはDS施設に専門家やリソースがあるわけではない。すみ分けという意味ではデータ共有を打ち出していくのも策である。
 - 第3期にDS施設に求められているのは、研究所との分離性で、研究所からDS施設に移ってきたからこそできること、研究所単独ではできないことを支援する活動を行っていくのが望ましい。